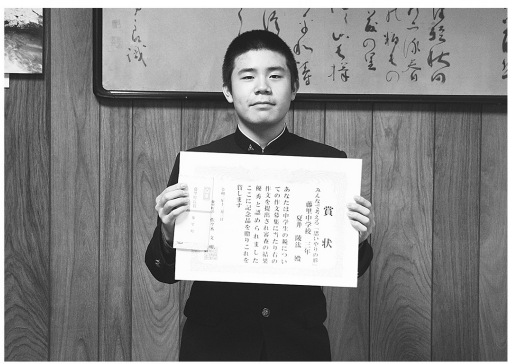


「税についての作文」

藤里町長賞受賞



12/3 藤里町長賞授与

中学生の「税についての作文」で藤里町長賞に受賞された作文を紹介いたします。

藤里中学校3年
夏井 陵汰さん
(矢坂上町)

作品紹介

みんなが考える「思いやりの形」

私の住む秋田県藤里町は、人口約三千人、うち六十五歳以上の高齢者がその約半数を占めています。北部一帯には、世界自然遺産の白神山地。藤琴川と粕毛川が町を流れるという、小さいけれど、自然豊かな町です。人口減少、住民の高齢化は進み、大きな商業施設などありませんが、心の満足度、幸せ度の高さは、他の市町村には負けません。

私の学校の体育祭や学校祭には、家族はもちろん、地域のお年寄りの方も見に来てくださいます。なぜなら、町のみんなが私たちを支え、応援してくれているからです。私たちもその思いに応えようと、夏には地域清掃、冬には除雪作業などで恩返しをしています。昨今は、遠慮なく触れ合うことができなくなり寂しいですが、そんなのにも揺るがない、強い絆でつながった我が町です。

でも、心の満足度や幸せ度を保つには、心のつながりだけではどうにもできないことがあるのも事実です。私たちが、この町を支えるのだという使命感はあっても、まだ中学生。少子化が急速に進み、支える側のパワー不足も心配です。少子高齢化は、我が町に限らず日本全体の課題です。そこで私は、高齢者社会を支える税金について調べてみました。

よく耳にするのは年金制度です。まだ私には縁がありませんが、高齢者が増え、平均寿命も延びていることによる減額の話も聞きますが、今の豊かな日本を作っ

てくれた高齢者の方に、ゆっくり安心して生活してもらうためには絶対に必要なお金です。

そして医療費。年を取ると、病気やけがも増えるでしょう。そのときに、お金がかかるからと治療を遠慮してほしくないのです。そのサポートのために後期高齢者医療制度というものがありました。私は、年金の中で全てを賄わなければならないと思っていたので、その手厚いサポートに驚くとともに、「よく考えられているなあ」と感心しました。

さらに、介護もあります。「お年寄りを支える」と考えたとき、真っ先に思い浮かぶのは、直接的な支えである介護です。「自分の親や祖父母くらい、自分のお金で何とかするよ」「安心して僕に任せてくれていいよ」と思っています。でも、大人になると、そんなに簡単ではないかもしれません。家族をもち、子を育てる過程で、金銭的に苦しい思いをするかもしれません。そう思うと、自分の家族を、配偶者控除や扶養控除といった税の形で一緒に支えてくれる、協力してくれる人たちの思いやりに感謝せずにはいられません。

少子高齢化問題は、我が町だけの話ではありません。私が大人になり、高齢者になったときには、もつと拍車がかかっていることでしょう。それだけに、まだ中学生だからではなく、もう中学生だから、考えていかなければならないのだと思います。高齢者も、高齢者を支える私たちも、みんなが安心して暮らしていくための「思いやりの形」を――。

みんなのわだい